

第2回仙北市将来ビジョン策定委員会会議録

- 日 時 平成23年1月12日(水) 18時25分～20時50分
■会 場 角館樺細工伝承館 第1会議室
■出席者 委員長 島澤諭 副委員長 平野英子
委 員 佐々木美智秋 佐藤慎 佐藤雄喜 杉宮百合子 関口久美子 田口知明
門脇市長 藤村総務部次長、富岡参事、戸澤課長補佐、武藤主任 13名
■欠席委員 佐々木恵美子 藤枝優子

1 開会

事務局 | 只今から第2回仙北市将来ビジョン策定委員会を開催します。
本日の欠席委員は佐々木恵美子委員と、藤枝優子委員です。
委員長からあいさつをお願いします。

2 委員長あいさつ

島澤諭委員長 | 年明け1回目、都合2回目の仙北市将来ビジョン策定委員会です。
実質的には、今回から中味について詰めていくことになろうかと思っておりますので、委員の皆様におかれましては、前回にも増して活発な意見を賜りたいと思っております。よろしくをお願いします。

事務局 | 続いて市長からあいさつをお願いします。

3 市長あいさつ

門脇市長 | 明けましておめでとうございます。今年もよろしくをお願いします。
先ほど委員長からもありましたように、本格的な議論が始まるということだと思います。
今日は、市民意識調査についてと、市民所得の向上についてです。
将来ビジョンに占める柱的には、市民の所得向上が非常に大きな部分になって欲しいという思いがあります。
将来ビジョンの中で、所得の確保策についてどんなビジョンを描けるかということが、今回のこの将来ビジョン策定についての成果を左右する位の大きなファクターになると思っています。
短い時間で様々なことを議論するのはなかなか難しいと思いますが、所得向上策に可能性があることについては、どんどん議論していただきたいと思っております。
今ちょうど、予算編成をしている段階でして、出来るだけ沢山の会議に出ていろんな話をお聞きしている状況です。少しでも早い時期にスピード感を持って、政策的に予算を構築したいと思っておりますのでよろしくお願いします。

事務局 | 協議に入ります。進行を委員長にお願いします。

4 協議 案件 1) 市民意識調査について 2) 市民の所得向上について

島澤諭委員長 | 1点目、市民意識調査について説明をお願いします。

事務局 | 本日のメインは「市民所得の向上」ですが、その前に市民意識調査についてご説明します。
概要については前回、皆様にご説明しましたが、今回、アンケート調査票の案を作成しました

のでこれについてご説明します。

1ページ目が回答者自身の年齢層や職業を記入いただき、2ページ目は「住みやすさ」の質問です。これは、住みやすいか、住みにくいかについて、現在と、仙北市誕生の5年前との比較を聞いてみるものです。

3・4ページ目は、いろいろな項目についての満足度を、5年前と比較する形式です。

5・6ページ目については、市として特に聞いてみたいことを挙げてます。

7ページ目は、市が進めていきたいことについて「はい・いいえ」で答えていただくようになっています。

皆さんからのご意見で、内容を調整したいと思いますのでよろしくをお願いします。

島澤諭委員長 説明された市民意識調査の案について、気づいた点などありましたらよろしくをお願いします。

事務局 ページ数はこれくらいが限度かと思います。ページ数が多すぎると回答の精度が落ちたり、回答率が悪くなる傾向があるようです。今回は8ページですが、これでも多い気がします。

佐藤慎委員 内容についてでは無いのですが、3・4ページは行間に対して文字が大きすぎる感じがします。このことによって見にくくなっている気がします。

事務局 文字の大きさは、年配の方々を考慮して出来るだけ大きくしています。

佐藤慎委員 7ページのような行間だと文字の上下余白が十分なので、文字の大きさが同じでも見やすい気がします。

佐々木美智秋委員 文字の大きさについては、これ以上小さくなると見にくいと思う。今の大きさでもちらちらしています。

田口知明委員 説明のページに「行政全般に日頃思っていることや、将来の夢」とありますが、「夢」を記入する部分が無いように思います。

事務局 一番最後のページが自由記述になっていて、そこに記入いただきたいと思います。

田口知明委員 もう1点お伺いします。前回、説明があったかもしれませんが、今日初めて参加しますので教えていただきたいのですが、将来ビジョン策定委員会と市民意識調査をする目的とはどういう関係になるのですか。

事務局 行政全般について市民の考えを反映したり、ここで策定する将来ビジョンについてもアンケート結果を反映したいと考えています。

田口知明委員 市民の現状を把握して、ビジョンに盛り込んで行きたいということですか。

事務局 そうです。

島澤諭委員長 1ページ目、⑥の3番目について、「他の市町村から転入」という記述だと、県外からの転入者が記入しにくいので「等」を入れるなどの工夫をしたほうが良いと思います。

それと、複数回答が可能な設問についてですが、全ての選択肢を選択可能な形式だと、施策に反映させる時に優先順位がつかなくなる可能性があります。

事務局 委員長の発言は最もですが、1つには絞れない場合も多いです。2つから3つ選ぶ方法もあるかと思っています。

島澤諭委員長	量が多いアンケートは、疲れてくるとマルを沢山つける傾向が出てきます。施策に関するところは、回答を絞ったほうが良いと思います。あと、どれくらいの回収率を想定していますか。
事務局	50%程度が一般的のようです。
島澤諭委員長	今回くらい量が多いアンケートでも、半分まで行けるでしょうか。
事務局	似たような量のアンケートを4年位前に行いましたが、その時は50%前後でした。
島澤諭委員長	他に質問などありますか。
田口知明委員	仙北市の良い部分と悪い部分を聞いてみたらいかがでしょうか。設問が細かく分かれているので、これはこれで良いと思うのですが、もっと単純に、市民が考える仙北市の良い部分とダメな部分を記述してもらう方法も良いかと思います。
事務局	間接的ですが、それに該当する項目はあります。
田口知明委員	ここに住んでいる理由と良い部分はリンクしないと思います。ここに生まれたから住んでいる人が多いと思います。
事務局	これについて自由記述出来る項目を設けたいと思います。
佐藤慎委員	良い部分悪い部分について関連ですが、転入されて仙北市に来た方々は他の地域でも暮らして来ているので、比較しやすくおもしろい意見が聴取出来ると思います。
事務局	この調査は、まだ期限を設けていません。今日のご意見などを検討させていただき、それから2千人を抽出し回答いただき、2月末までには回収し、3月の会議には集計結果をお示し出来ればと思っております。 集計方法については、ご意見がありましたようにクロス集計として、生まれた時からここに住んでいる人と転入された方の違いが分かるような集計を出したいと思っています。
田口知明委員	送信も返信も郵送になるのでしょうか。
事務局	はい。
関口久美子委員	全てがフラットな条件での観点と、市長のビジョンに基づいた場合とでは違いがあると思うのですが、ビジョンに基づいた質問はこの中にありますか。 市長が実現したいと思っていることについて、資料になるような質問ということです。
事務局	所得の向上など市長のマニフェストに関係した設問は5ページなどに盛り込まれています。これから考える将来ビジョンについての項目はありません。このアンケートの結果を将来ビジョンに盛り込むことが有効だと考えています。
関口久美子委員	このアンケートの結果から、何を導き出すかが一番重要だと思います。
事務局	結果の分析は重要です。
関口久美子	3・4ページにある質問の内容についてですが、例えば「観光」の項目の中に「観光誘客」と

委員	<p>「観光客の受入体制の整備」とありますが、これらは違うことだと思います。</p> <p>内容によってはリンクする部分がありますが、これを一度に聞いて1から5までで評価することは非常に難しいことだと思います。</p> <p>ここから何を導き出せるのか非常に難しいと思います。</p>
事務局	<p>そのとおりです。例えば、お話しがあった「観光」の項目の中でも、詳細についての良い・悪いがあると思います。ただ、このアンケートは限られたスペースの中で全般的なことを聞く必要があり、どうしてもこのような形式になってしまうのが辛い部分でもあります。</p> <p>例えば観光なら、観光に特化したアンケートや意識調査があれば一番良いと思いますし、そういったものは観光課で行っている状況です。</p>
関口久美子 委員	<p>データを統計立てて分析するのは非常に難しいことだと思いますが、市長が最終的に目指すべきところは市民の幸福感を上げていくということが究極の目的だと思います。</p> <p>昨年12月の暮れの報道ですが、国も幸福度の尺度を客観的に評価することを具体的に研究していくということでした。</p> <p>結局はGDPで中国にも追い越されようとしています、経済的な成長と国民の幸福感は一致していないところから始まっていて、多面的に分析していくという視点からそれが立ち上げられたということでしたが、アンケートの聞き方によっては、そこが非常に難しい気がします。</p> <p>「あなたは今、幸せと感じていますか」という部分も含めて、幸せの尺度は人それぞれ違うかと思いますが、それをダイレクトに聞く質問があっても良いのかなと思います。</p>
事務局	<p>誘導と捉えられてしまうことがあり、深く質問出来ない項目もあります。</p>
島澤諭委員長	<p>幸福度調査については、私の専門分野にも関連がありますので少しお話すると、このアンケートでそれを聞くのは難しいかと思います。</p> <p>一般的な形式としては、例えば「あなたは幸せですか」について、1から5又は1から10までの段階で選ぶ形式で行われますが、大体は真ん中あたりにマルをつけるバイアス(偏り)があります。</p> <p>学問的な話で申し訳ないのですが、幸福度調査を行う場合は、専門的な設問を組み合わせる必要があります、このアンケートで「幸せですか」と聞くだけでは難しいと思います。</p>
関口久美子 委員	<p>導かれた結果に対して、更なるアンケートなどで掘り下げていくことはありますか。</p>
事務局	<p>そういったことは可能だと思います。このアンケートで出された結果では、これからの計画やビジョンに示すことが難しいならば、そのような手段は必要かと思います。</p>
関口久美子 委員	<p>例えば「やや不満」とか「非常に不満」が多い場合、掘り下げて行かざるを得ないのでは無いかと思います。</p>
事務局	<p>具体的に何が不満なのかが分からない状態だと思います。</p>
門脇市長	<p>それについては、間もなく市のホームページに満足度カウンターが設置されます。</p> <p>これは、私の市制公約の8項目について、現状でどれくらいの満足度があるのかをクリックしていただくカウンターで、来週くらいから運用出来る状況です。</p> <p>カウント数は日々変わります。どうしてこれが良いかというと、例えば来年度の予算について、「これこれの施策を行います」とお話しした時に、期待感や実態感があつたりした場足、カウント数が「まったく不満」から「やや不満」に移るなどということが、8つの項目ごとには見えるということで、この準備を進めています。</p> <p>「幸せ度」と「満足度」がイコールかと言うと、実は違う訳ですが。</p>

田口知明委員	このアンケート調査の結果を、ビジョンにどのように反映させるかだと思います。 例えば観光について、先ほど関口さんがお話しになったように「やや不満」の結果が出たときに、ビジョンにはどのように反映させるのかという部分の道筋が見えにくいです。
事務局	具体的な意見が出てくると分かり易いのですが、「やや不満」とかだけで具体的なことが分からないとなると、それについては、例えばここで皆さんに考えていただく方法もあります。
田口知明委員	自由記述のページが重要になって来ますね。
佐々木美智秋委員	そうすると、更なるアンケートなどで問題がどこにあるのかを調査する必要がありますね。
事務局	当初の回答用紙は、項目ごとに「何が不満か」を記入する枠を設けていましたが、ページ数がとても多くなってしまったことから、その部分を削除した経緯があります。 作り込む程に聞きたいことが多くなってしまいます。
佐々木美智秋委員	例えば、春の桜の時などですが、観光客に対してのアンケートなどは行っていますか。
事務局	定期的には行っていません。一昨年に行いました。
佐々木美智秋委員	漬物の場合でも、商品と一緒に必ずアンケートを入れていて、例えば買った店のイメージが悪かったとか、結構シビアな評価をいただいたりするのので、観光に関してはそういったアンケートがあっても良いかなと思います。 市民サイドの意見は必要ですが、来てくれた方々の外目線での観光のアンケートがあっても良いかもしれません。
事務局	観光に関しては特にそうだと思います。
佐々木美智秋委員	市でも観光を大きく掲げているので、どこが問題なのかをしっかりと把握したほうが、これから進んで行くに関して分かり易いのではないのかなと思います。
杉宮百合子委員	クリオンに来たお客さんが「西木村はとても良いところなので毎年来ているけれども、アピールが上手じゃ無いね」と話していたそうです。 こんなに良いところがあるんだから、接待とかをもう少し考えてみてはいかがかということを知ったので、観光客から見た目と、ずっとここに住んでいる私たちとでは、見るところがちよっと違う面があるのかなと思うので、旅行者などの声を聞くことは良いことだと思います。
佐々木美智秋委員	遠くから来たお客さんから一番最初に出る言葉は、「米どころにしては、ご飯が美味しくない」です。これは必ずと言っていいほど言われます。 国体の時、各ホテルに来た選手に一合パックの米をJAで提供しました。それだったら、その宿泊施設に米を卸したらと言ったら、おばこからは「安くて卸せない」と言われ頭にきました。 仙北市のあきたこまちが美味しいと思ってもらえれば赤字でも良いと思います。 東京のスーパーでは、あきたおばこの米がエリア毎に販売されているので、その時に「仙北市のお米が美味しかったな」と思い出してもらえれば売れると思います。 当時、自分は農協青年部の部長をしていたので、そういう「繋がり」があるということを発表したのですが、なかなかどうして上部の方々は頭が固くて。それでもやっとの思いで、そのお土産パックを出してもらったのですが。 実際は、急遽、お土産コーナーを作ったのですが、選手からは「ご飯が美味しくない。これ

じゃあチカラが出ない」と言われました。

国体なので宿泊単価を下げられたりして大変だったとは思いますが、それを覚悟でやってもよかつたのでは無いのかなと、あのとき思いました。

門脇市長

総合産業研究所の研究員が、宿泊施設などで、地元のあきたこまちをどれだけ使っているかの調査をして、現在は実数調査が殆ど終わっていると思います。

実際のところ、かなり使われていないということが判りました。

単価的には「これくらいが必要」ということを厨房の責任者から言われるらしいです。

その厨房の方々は、遠方から巡回してくる納入業者さんをはがっちり掴んでいるんです。

米にしても野菜にしても肉にしても、職場での長い歴史の積み重ねがあるので、飛び込みで営業をかけても良い返事はもらえません。

地元のあきたこまちを〇〇円くらいで卸せますという話をしたとき、例えば他がkgあたり20円安かつたとした場合、その差額を市で負担してもいいので卸せませんかという話を進めているところで、それに関する調査の殆どが終わった状況です。

自分がやりたいと思っていることに関連した内容の話が出ましたので、知っている範囲で説明させていただきました。

佐々木美智秋
委員

それに関しては、市だけでは無くおぼこにも協力して欲しいですね。

門脇市長

「損して得取る」を以前から話していますが、おぼこさんは反応があまり良く無いです。

佐々木美智秋
委員

県内の合併農協の中で全農以外に一番多く出荷しているのは「おぼこ」です。
60%を超えています。

門脇市長

そうです。海外に出荷しているのが一番多いのも「おぼこ」です。

佐々木美智秋
委員

それだけのロット数を持っているので出来るのですが。

去年、秋田しんせい農協の職員と話しをする機会がありました。その職員が言うには「こっちは頭が固くて。全農以外に出荷しているのは3割程度」とのことで、全農からも「その程度に抑えなさい」と言われているらしいのですが、「ささにしき」で有名だった米どころが、もうめちゃくちやだと話していました。

門脇市長

「何も無くても、米だけは美味しかったな」というだけで、お客さんはリピートするという話が、以前から観光協会の話にもあって、ただ、それが実現出来ていないというのは、単価のことと、厨房の方々のネットワークに切り込んで行けない状況があるということのようです。

島澤諭委員長

2つ目の協議事項である「市民の所得向上」についての話に近づいているような気がしますので話を戻します。アンケート調査票に関しては、更に何かありましたら個別に事務局にお伝えいただければと思います。

さて本日のメインと考えていました「市民の所得向上」についてですが、これは市長のマニフェストの中でも非常に大きな部分を占めるものだと思います。所得を上げる為には、行政が施策としてどういったことが出来るかということだと思のですが、これについて、忌憚のないご意見を伺えればと思います。

門脇市長

自分はあまり発言しないようにするつもりですけれども、でも口がかゆいものでしゃべってしまうのですが、これについて、結果的に「意識改革だ」などとはならないようにして欲しいです。

それは間違い無く正解の話で、行政がどんなに所得確保をしようと言っても、仮に、市民の方々が「これで手一杯だ」という状況だとしたら、どうがんばっても意識の部分でリンク出来ません。

それはまず横に寄せて、現実として県内25市町村の中で最下位と言っても過言では無いとこ

ろに位置する分配所得をどうやって高めていくかです。

先ほど佐々木委員から発言があったように、例えば、市内の宿泊施設や食堂・レストランは地元の食材を徹底的に使ってもらおうということで、例えばエコの観点、フードマイレージの考え方で、CO2を排出して遠くに送らなくても、地元で新鮮な物を食べてもらったほうが地元で所得を確保する最善の方法では無いかということもあります。

そういう色々な手法を皆さんからお話しいただければと思います。

佐々木美智秋
委員

大潟村の米粉のことは今朝のニュースだったかと思います。米粉で餃子を作るらしいですが、良いところに目をつけたなと思いました。「やられたなっ」という感じがしました。

大潟村では、個人での販路拡大にがんばった方々が多数いるようですが、今は全然ダメなようなので、ある有名な方が言うには顧客が1/10になったそうです。

事務局

佐々木恵美子委員は欠席されていますが、所得向上についてのご意見を伺ったところ、「観光にチカラを入れてください」ということでした。

観光が活発になると、交通や宿泊、そして今のお話のように食材も売れるということで、例えば「雫石のトラック市」。角館の立町でも行っていますが、地元の方は勿論、観光客も対象にしてみたいかがかでしょうかということでした。観光客が生野菜を買っていくかは分かりませんが、立町の他に武家屋敷付近の空き地などでも、色々な物を売ってPRしてはどうかというお話をいただきました。

食に関しては「山の芋鍋」などもありますし、B級グルメなども話題になっているので、そういったものをPRして、どんどん売り込んでいただきたいというご意見でした。

島澤諭委員長

ありがとうございます。

佐藤雄喜委員

前回もお話ししたとおり、まずは観光客を呼ぶ体制を整えることでしょうか。

前回、冗談半分で「仙北市米」の話をしました。農協を通さなくても販売出来るような状態が出来ると、市場での米の価格がどうであれ、仙北市の米の美味しさが観光客に知れ渡れば、もっと都会で売れると思います。

東京では産地が「田沢湖」だと、こまちで1,000円位違うそうで、本当に産地が田沢湖かは分からない部分もありますが、現実には、都会では「産地銘柄」がかなり重要視されています。

「魚沼産のコシヒカリ」と言っても、実質数量の数十倍が出回っています。

仙北市としては、そのようなことが無く、純粋な仙北米だけを投入出来れば農業分野に関しては、所得の向上につながっていくのではないかと思います。

林業関係だと、鹿児島などは大きな乾燥機が導入されています。秋田県は大規模の乾燥施設が無い為に売れ行きが悪いとかということもあるので、そういった部分についても市でバックアップして、例えば、門脇(林業)さんとか田口(林業)さんとか桧木内製材さんとか、上手く共同して大規模で集成材などを作れば、これからは県内産のスギなんかは、出していけるのでは無いかと思います。

佐藤慎委員

「スギ乾燥センター」では駄目なのですか。

佐藤雄喜委員

あれでは小さいと思います。

田口知明委員

要はロット数の問題だと思うのですが、何に出して行くかだと思います。例えば、東京市場で九州勢と戦う為に出すというのであれば、相当数のロットが必要です。

佐藤慎委員

教えて欲しいことがあるのですが、この前、新聞に東北六県の農業出荷額だったか売上だったかが載っていて秋田県が最下位になっていました。

私にとっては結構な驚きでした。トップでは無いにしても、秋田県は平地が多いし面積も大きいので、もっと上に位置していると思っていました。どういった理由で最下位なんですか。

島澤諭委員長 私を知る限り秋田県は以前から最下位です。基本的に秋田県の農業生産額の6割は米です。ですから、米価が下落すると農業生産額がどんどん落ちて行きます。
私が秋田県に来たのが7～8年前ですが、その頃から5位とか6位です。
ですから、例えば県として、農業の米依存からの脱却ということで枝豆とかなどで多角化を進めているところなんだと思います。

佐藤慎委員 それについては先日、知事からも米だけに頼ってはいは駄目だというような発言があったように思います。最下位というのは驚きでした。

門脇市長 秋田県を100%とした場合、農業所得は3%位です。40%位が商工業関係で、残りの40%がサービス業などです。このような割り振りになっているはずですが、全体に対しての規模はとて小さいです。

佐藤慎委員 そうすると、3%の部分をごんぱろうと思ってるんですね。

門脇市長 「農業秋田」という足かせのようなものがあります。実際所得の比率からすると微々たるものなのですが、昔からの歴史みたいなものに対して責任を感じている部分はあります。

島澤諭委員長 農業県秋田でも3%ですが、これを全国平均で比べると他県の3倍くらいあります。なので、農業と製造業とサービス業の中での農業のウェイトはとて大きいです。

佐藤慎委員 全国平均の3倍で3%なんですよね。

島澤諭委員長 全国平均からするとそうです。

佐藤慎委員 全国が1%で秋田が3%ということですね。

島澤諭委員長 はい。ただし、産業の構造からすると農業のウェイトが大きいので、それが農業県だということの根拠の一つになっているということです。

門脇市長 材料として農産物を出荷していくというのが主な部分で、新潟県や山形県のように、それを更に加工して二次製品にして売って行くというような様々な展開を米に関しては出来なかったことが秋田県にはあります。
マニフェストにもありますが六次産業化をしていくことが所得確保には非常に有効だと思います。複次産業をしていくということです。
それから、先ほど佐藤委員からあったブランド化。産地のブランド化はとて重要で、例えば「田沢湖・角館」という観光ロゴマークにしても、「仙北米」とするより「田沢湖・角館米」と表現したほうがお金がついて来ます。
そういった使い方をして行こうということのステップです。全ての物に対してのイメージ的な部分で「田沢湖・角館」というと清涼感があったり、清潔感があったり、こういった感じが定着しているという想定のもとに話をしていくと、少しでもこの名前を使って少しでも単価を上げて行く、ブランド化をしていくということの戦略が必要になって来ると思います。
このような議論の方法もあるし、例えば、現存する物を活用して所得確保を図ろうという考え方もあります。
他には、今は実際に手中に無いけれども仙北市だったら在っても良いような業態とか製品とかに取り組んで所得を確保しようということもあります。
物事を斜めから見たり後ろから見たりすると色々な視点があると思います。皆さんは色々な視点をお持ちの方々ですので、自由な議論をしていただきたいと思います。

田口知明委員	<p>仙北市はこれだけの物を持っていて、何でこんなに低いんでしょうか。</p> <p>観光にチカラを入れることには自分も賛成なのですが、今までも、あぐらをかいていた訳では無く色々な事をやって来ています。</p> <p>去年は「アイリス」で大きな花火が打ち上がったし、角館の桜には相当なお客さんが来ています。それなのに、全県でも下から3番目とかという現状の要因をどう分析されているものでしょうか。不思議ではないです。例えば大仙市と何が違うのか。向こうは花火だけです。</p>
佐藤雄喜委員	<p>仙北市は通り道になっていて泊まる場所になっていないです。</p>
田口知明委員	<p>そうは言っても下から3番目じゃないですか。例えば、10番目位の市町村にどれ程の宿泊施設があるのかと考えるとそんなでは無いと思います。</p>
門脇市長	<p>自分の分析では、主要な確たる産業を持っているかいないかの違いだと思います。</p> <p>先ほど発言があったように、仙北市は観光産業と言いつつも、観光客一人あたりの消費額が非常に小さいので、滞在型の観光にする必要があると言われていました。</p> <p>同じように、例えば小坂町だったり大館市だったりすると、リサイクル産業をちゃんと定着させているというようなことがあります。畜産にしても豚豚を作ったりとか。主要産業でどこにも負けないブランドを持っているところは強いのかなと思います。</p> <p>観光について他市町村と比べると、仙北市は突出して立派なものがあるのに何故所得が低いのかと言うと、それは、市民の方々が自分が観光産業に携わっているという感覚が無いということです。</p> <p>例えば農家の方々は、自分たちが観光をやっているとは思っていません。ところが何を食べているかと言うと、その方々が作った物を食べてもらいたいと思っているし、口に入れる物を作っています。「皆さんが一番責任がある観光産業の担い手ですよ」と言っても、そのような意識は持っていません。</p>
杉宮百合子委員	<p>余談になりますが、先日、旅行の懸賞に当選して父親と旅行に行ってきました。</p> <p>郡山に行って、豚まんを自分たちで作りました。「蒸かしているあいだに色々なところを見てください」と言われて、ガラス館とか色々なところを見ましたが、その後また戻って自分が作った豚まんを食べる。こういったことも良い考えだなと思いました。</p> <p>田沢湖にしか無い、角館にしか無い、西木にしか無い物。</p> <p>例えば、お米どころなので「いなり」を作る。それだけでは物足りないので笹を用意しておき、笹を作ってもらいその上に「いなり」をのせて味わうのもいいんじゃないかなど色々考えてみました。「いなり」に稲庭うどんを入れてみたりとか。</p> <p>何かを作って「あそこでは、こんな事をしたな」など、思い出になるようなことを考えてもいいんじゃないかなと思いました。</p>
佐々木美智秋委員	<p>以前、おにぎりを作ったことがありましたよね。</p>
門脇市長	<p>「握り飯大賞」ですね。</p> <p>再三に渡りローソンでの商品化をお願いしたところ、ローソンでは地場産の米を使えないと言われました。食材の仕入れ先が決まっているそうで、ローソン東北支店では、あきたこまちは使えないと言われました。</p>
佐藤慎委員	<p>サークルKなども駄目だったんでしょうか。</p>
門脇市長	<p>サークルKは大丈夫らしいです。それは、後から知った情報でした。</p>
佐々木美智秋	<p>関連してですが、仙台市内におにぎり屋が出来ました。美味しくなかったです。握り方が下手</p>

委員	でした。全然美味しくなくて、一緒に行った方々からも不評でした。
門脇市長	お米自体は美味しいんですね。
佐々木美智秋委員	全然ダメでした。炊き方、握り方、全てが駄目でした。
佐藤雄喜委員	「ひとめぼれ」であれ「こまち」であれ、10万円位する高価な炊飯ジャーで炊くと、絶対美味しくなります。一番美味しいのは、かまどだと思いますが。
佐々木美智秋委員	研ぎ方で味が全然違うとテレビでもやってました。
佐藤雄喜委員	自分の米でも、水量の多い少ないで全然違って炊けたりすることがあると思います。
門脇市長	以前、「JA」と「象印」に、あきたこまちが最高に美味しく炊けるプログラムを持った炊飯ジャーを作って欲しいと再三お願いしたのですが、プツと笑われました。
佐々木美智秋委員	最近の炊飯ジャーで炊くと、古い米だったりが一発で分かってしまいます。
佐藤慎委員	前回は少しお話ししましたが、あきたこまちの認識度が全国的にどのように評価されているかが、結構なポイントになるのではないですか。
佐藤雄喜委員	認識が落ちてきているのが現実です。それを再復活させる為に、仙北市とか美味しいところだけの米を食べてもらう。美味しくないと地域の人と混ぜないで米を売る。 水なども違うのしょうけれども、内陸部でとれる米は美味しいです。
門脇市長	先ほどの杉宮さんの意見は、ご飯の炊き方よりも「体験する」ということをきちんとプレゼン出来る仙北市になったほうが良いという意見だと思います。
杉宮百合子委員	思い出になるようなことが一つでもあれば、「あそこではこんなことをしてくれた」ということで、また行きたいと思うし、友だちなどにも勧められるのではないのでしょうか
門脇市長	思い出を作れるような仕掛けが必要ですね。
杉宮百合子委員	この前の旅行では、ガラス館などに行ったことよりも武家まんを作ったことが思い出に残っています。
佐藤雄喜委員	例えば、仙北市が他県に出向いて、仙北市に無料で旅行出来るプランを紹介するとか。
門脇市長	来てくれた時に、また仙北市に来たいと思ってもらえるようなことを提供出来るかどうかということだと思います。 綺麗なところが沢山あって、美味しい食べ物が沢山あったとしても、自分たちが何らかの体験をして思い出を作るといことが仙北市の観光だったり暮らしの中にあるかということ、実はなかなか提供出来ていないのかもしれない。 例えば長野県に行くと「おやき文化」があって、おやきを焼いている間に散策して来てと言われて、近くの売店などで結構な額の買い物をしたりしてしまう。 10分位して帰って来ると、おやきが出来上がっていて。そういったことがきちんと出来上がっている。

	仙北市はどうかというと、そこまでは行っていないのかもしれませんが。
平野英子 副委員長	それを学ぶ必要があるのではないのでしょうか。
佐藤慎委員	市長は当然そういった事をご存知だと思いますし、今のような話は10年位前から何回も話し合われていることだと思います。 そのことは観光業の方々は分かっていることだと思います。
関口久美子 委員	体験については、それぞれの施設がそれぞれのメニューを行っていますが、お客様が一番喜ぶのは「ありのまま」というか、「住まい方を売る」ということで、お客さんだから何かしなければいけないとかでは無く、そのままの物が良くて、それが一番の宝で、それを味わう。その先に在るのは食べ物であったり人であったりする訳です。 心を置いたところに、また行きたくなり、その中にあるのは人とのつながりということになるので、農産物を通した人とのつながりですね。仙北市が第2の故郷だと言ってもらえるくらいのつながりをいかにして構築するかということなんですが、そこは気負う必要がなくて、そのままが良いってことに気づいていない。だから、農家さんで中学生などの受け入れをしていますが、そうすると、学校に行けなかった子が学校に行けるようになったりとか、そういったことがきっかけでまた田沢湖に来るとか。そういった話を聞くことがあります。 そこに農業があり、あらゆるところに観光との接点がある。ということで、一例としては田沢湖の刺巻地区の青年部の方たち。水芭蕉を運営している方たちなんですが、そこに観光の原点があるというか。そこで作った漬物を売るとか、お米を売るとかが普通に行われていて、その青年部のまとまりの中で、皆さんが作ったお米を炊いて並べて、食べてもらって評価してもらおうということをしている。 首都圏に行って田沢湖産のお米だとか仙北市産のお米だと売っていても、農家の人と直接話をするには出来ません。 農家の人と直接話をして、そこで昔から漬けられている漬け物を食べるということ以上の幸せは無いかと思えます。 この地区では、お母さんたちが工夫して作った料理の発表会があったりして、そこに招かれていくことがあったりするのですが、そこに観光客がいたらいいなど。それが、お米を売ることにもつながってくる。そこでまた、〇〇さんちのお米を食べに来ましたということにつながってくるんじゃないかと思えます。
門脇市長	あそこの地区はおもしろいところで、みんなで評価しあう。
佐々木美智秋 委員	その年の一等賞の米は、翌年度の水芭蕉の時にみんなにお披露目される。
佐藤慎委員	何人位でやってるものなんですか。
佐々木美智秋 委員	地域には農家じゃ無い方もいるので、そんなに多くは無いと思いますが、屋号を持っている家は大体が参加しているようです。
佐藤慎委員	10軒とか。100軒とか。
佐々木美智秋 委員	20から30軒だと思います。源田坂を超えたあたりです。
平野英子	温もりがあるんですね。

副委員長	
佐々木美智秋 委員	まとまりがある地域です。親戚関係の方などが多いです。
関口久美子 委員	恐るべし刺巻地区みたいな感じで、それをちゃんと見せるし、自分たちで維持管理もちゃんとしているし、自治のつながりの中で行っていることがすばらしいと思います。 こういったことを各地に作るのか、または市として産業祭とは違った観光客との結びつきと言うか、住まい方というか、人柄とか、交流出来る場と言ったらいいのか。
佐々木美智秋 委員	あそこには毎年来る人がいます。
門脇市長	米についても、相当数を個々に販売しています。 米のコンクールで最下位になった人にもちゃんとした賞状が贈られたりします。よくもこんなに不味く作りましたねみたいな賞があって、辱めを1年間受けてくださいという賞状があります。 自分たちで楽しんでいます。
関口久美子 委員	あそこには原点があると思います。
佐々木美智秋 委員	最下位の人、呑む度に愚痴を言ったりしていますね。
門脇市長	所得向上に関連すると、もしかしたら市全体を考えることよりも、どこかのコミュニティであったり集落だったりをモデルとして、徹底的に口を挟んじゃうとか。行政が口を挟むのは、そもそも有りきでは無いのですが、そういったコミュニティを作っていくというのは、地域運営体の考え方そのものなので、特化してどこかの地域を応援することも必要だという提案にもなるかもしれません。
関口久美子 委員	今の話の流れと変わってしまうのですが、仙北市の納税者の仕事の構成比はご存知ですか。
事務局	担当課では分かるでしょうが、このメンバーでは分かりかねます。
関口久美子 委員	基本的なデータとしてそれをいただきたいと思います。 農業所得での納税割合がどのくらいなのかなどを知りたいです。その幅が一番大きいところが重要になって来ると思います。
事務局	次回の会議前に、事前資料として送付いたします。
田口知明委員	他にもビジョン策定に必要と思われる人口推移とか、年齢別の分布図とか、そういったものを見せていただければ、それをふまえた上で策定出来るかと思います。
門脇市長	そうですね。例えば人口が3万人でも、生産人口がどんどん少なくなっていく可能性などもありますね。 お年寄りに働いてもらう方法は無いのでしょうか。
島澤諭委員長	人口が減って行くことと、生産人口が減っていくことについては、県内どこの市町村も前提として捉える必要があって、そういう点で言うと、市長が話すように他から呼んでくる。交流人口なの

か定住人口なのかはありますが、その際に、先ほど六次産業というお話がありました。私も学生と一緒に、仙北市で何回かアンケートなどを行いました。いつも思うのは、先ほどのお話とも関わってくると思うのですが、横の連携が殆ど無いということです。かえって、ケンカしてるんじゃないかと思うくらい悪いように感じたりします。例えば、農業と食品加工業と観光業の間で上手くいってないなと思うことが度々あって、それが何十年も続いて来ているのかなと思ったりします。なんでそうなのかなというところが分からなくて、それが分かって、少し変えられれば上手く連携出来るのかなと思います。連携が悪いことに何か理由があるものですか。

佐藤慎委員 それは角館ですか。

島澤諭委員長 アンケートなどは角館でもやりましたし、田沢湖でもやりました。西木では行ったことが無いので分からないですが、多分、全体的にそうじゃないのかなと思います。

佐藤雄喜委員 多分、足引っ張りが多いからだと思います。

佐々木美智秋委員 特有ですね。

佐藤雄喜委員 連携をとろうとすると、あっちが良くなるからこっちを引っ張ろうとか、悪い方向に導く人たちがいる。

佐藤慎委員 そういった話を昔から聞きますが、実際には、私はそういった方々に会ったことが無いんです。

佐々木美智秋委員 我が家では漬け物を作って販売しています。市の産業祭などで、我が家のおばあちゃんが売っている時などでも、「これだったら自分で作ったほうが美味しい」とか「高い」とか。お客さんが買おうとしている隣でそれを言う訳ですよ。
だったら、それを持ってきて食べさせてと言っても持ってきません。

佐藤雄喜委員 こういったことがあるので、横のつながりについても、極力内緒にしておこうとなる訳です。

門脇市長 島澤委員長はそんなふう感じたんだと思います。内側にいる自分たちは、感じてない人もいるし、感じている人もいるのですが、つまりそれを許容しているんだなど。そういうものだと思っていることなんだなど。

佐々木美智秋委員 表面上は「そうだよね」と言っても、腹の中ではムカムカしている訳です。
レシピを教えてくれと言われて教えました。でも、いぶりがっこに関しては、大根の品種でやり方が変わったりするので当然出来上がりも違ってきます。
同じ品種で同じようにやってくださいと言っても「我が家はこの味だから」とか言って調味料を足したりするから不味くなる。それで、美味しくなかったと言われたりします。

門脇市長 同じレシピでも同じ味にはならないですから。でも、自信があるからレシピを提供出来るという部分も分かる気がします。

佐々木美智秋委員 一番簡単なビール漬けにしても、調味料を足されたりするから不味くなったりします。

門脇市長 先ほどの委員長の話に感動したことなのですが、極端に表現すると、隣の人と仲良くなれば所得が高まる可能性があるということではないかと。
人間関係の構築で横軸を上手くとると、色んな連鎖反応がおきて、連係が出来て、所得の向上につながるということを圧縮すると、「隣同士が仲良くすると所得が上がる」という話になるの

で、これは感動的なことです。なぜなら、これだとお金がかかりません。

島澤諭委員長 話を聞いて思ったことは、極端に表現すると「住んでいる人を全て入れ替えると上手くいく」などと言うことではなくて、最初に市長が発言されたことですが、人間性の部分にこの問題を落とし、と云々ということで、これはまさに人間性のところまで行ってしまったのかなと思います。

門脇市長 そうなんです。その部分の話をして、生産的な話にはならなくなってしまいます。

島澤諭委員長 人の関係なのか、企業の関係なのか、産業の関係なのかを問わないとして、横の関係を図って行く為に、例えば行政が何が出来るかということが、将来ビジョンを考える上では、重要なのかなと思います。そういったことはいかがなものでしょうか。

門脇市長 多分、行政は横の関係をとろうと一生懸命やっていると思います。昔からやって来ていると思います。

島澤諭委員長 でも、それが上手くいっていないんですね。

佐藤雄喜委員 上手くいっていないというか、行政は横の関係をとろうとしているかもしれませんが、実際のところ私たちが保守的になります。
例えばある場面で、横の関係をとりまわすと仕事をとられるのではないかということになります。
そうすると、とりあえず今回は大々的じゃなく、今いるメンバーで小規模でやったほうが良いとか、協賛してくれる人だけ加わってくれば良いとかという考えになっていきます。

平野英子副委員長 そのバランスがとれているのが刺巻地区なのかなと思います。それをみんなでやろうとすると「ああでも無い、こうでも無い」ということになり、「こっちは、こっちだけでやりたい」とか「あっちはやり方が違う」ということになってしまいます。

佐藤雄喜委員 どうしても、そういった部分が出て来ってしまう。

島澤諭委員長 それは、そういう人同士でのグループを幾つか作って、それが広がっていくということにはならないんですか。

佐藤雄喜委員 ならないと思います。

平野英子副委員長 例えばですが、立町のポケットパークで色々な地産地消の活動を行っていますが、そこへ各地区の人たちが一週間交替で来て、自分たちの物を売ってもらおうというのをやってみるというのはどうなんですか。

出向く為の交通費位は市で賄いますよと。売上は地区の人の取り分で良いと思いますが、場所代については少しくださいみたいな形式ではどうでしょうか。ポケットパークも綺麗にして行きながら、コミュニティ毎の磨きをかけるというか。例えば、そこで刺巻地区の良いところを見せてもらおうと、他の地域でも学ぶでしょうし、じゃあ、今度は他の地区がやってみようかと思うかも知れません。

佐藤雄喜委員 それだけ、まとまりがある集落だったら良いんでしょうけども。

田口知明委員 地区がまとまっています。

平野英子 副委員長	お母さんたちとかだったらどうなんですか。
田口知明委員	残念な話になってしまいますが、そういう人たちが物を売って儲かったとすると、同じ地域の他の人たちが「あの人たちがばかりだ」みたいになります。 でも、若い人たちはそうではないと思います。若い人は色々なつながりを持っています。
佐藤雄喜委員	若い人たちは「自分は自分、他は他」という考えを持っていますね。
佐々木美智秋 委員	今の若い人たちは、それこそ色々な横のつながりで「なんでアイツを知っているのよ」とびっくりするくらいの横のつながりがあります。 だから今、神代地区の若い人たちで、過去に農協主体で行っていた大字6地区による「さなぶり運動会」を復活させようという話があります。
門脇市長	そのことについて、運営体にも話がいつているようなことを聞きましたがどうですか。
佐々木美智秋 委員	どうでしょう。声かけはしているようですが、動きが鈍いような雰囲気もあるようです。
事務局	具体的な話はいただいていません。
佐々木美智秋 委員	唯一開催していた生田地域も昨年でやめました。今の若い方々は、他のことが忙しくてなかなか手をつけることが出来ないことが原因のようです。 なので、神代地区でも何かイベントがあっても良いかなというのが運動会復活の発想だったようです。
門脇市長	コミュニティの崩壊がここ20年位の間に進んでいて、これについて良い表現をすると、コミュニティという枠を取り払うことが出来た若い方々、つまり、私より若い世代の方々は必要以上に地域性にこだわらない活動やライフワークが定着出来ていると思います。 このことからすると、もしかしたら委員長が心配されたような人間関係でのあつれきのようなことは、そんなに苦にならない方々がこの世代にはいるんだと思います。 一方で、丁度その20年位前からの風習的なものとして、様々なイヤなことを感じている団塊の世代以上の方々については、それが染みついてしまっている精神のようなものだとすると、あきらめるしかない部分があるのかもしれない。
田口知明委員	お話しのとおり、その部分は無理だと思います。
門脇市長	そういった時代の方々を気にしないで、丁度いま、将来ビジョンを検討してもらっている皆さんのような世代の方々が、所得向上に向けてこれからの20年位をがんばられる方策を考えることが、もしかしたら良いのかもしれない。
佐々木美智秋 委員	全部が全部という訳ではないのですが、各地域でがんばってる人たちは70歳を越えてても元気で、まわりを引っ張ってくれている。なので、そういう人たちのパワーも貰いながらの横のつながりが必要なかなと思います。
田口知明委員	B級グルメについて佐々木さんの意見にありましたが、この地域でも「神代カレー」をやっていますが、まさにそういう団体です。 最初は「神代地域活性化推進協議会」ということで、神代の人たちが中心でしたが、結局は田沢湖からも角館からも募られていて、自分の利の為にやっている人は誰もいなくて、メンバーにカレー屋がいる訳でもないし、レストランを経営してるような人もいないです。

建設会社だの材木屋だので全く関係のない人たちなんですが、それでも、あちらこちらに出張したりして、もちろん手弁当で手間賃も出ないんですが、それでも、神代の米を食べて欲しいということで40代から20代の人たちでやっています。

神代カレーの活動を見ていると、こういう事こそが、故郷を思うことなのではないのかなと思います。

B級グルメは今、全国的ブームで、今回は「鳥もつ」が優勝しましたが、そこは役所の人たちがやっていて、当然に手間賃などは出ないと思います。それが何かと言うと、故郷に対しての思いと、故郷に対しての危機感だと思います。このままではマズイと。自分たちも何かしなければというところを共有できる人がいれば、チカラになるということが現実化されたものではないかなと思います

平野英子
副委員長

そういう思いを共有することは、やっぱり横との関係ですよね。一人では出来ないことをみんなで危機感を共有出来るような。みんなでアイデアを出して良くなって行こうとすることだと思います。

佐々木美智秋
委員

先ほどもありましたが、冬場のイベントが無いということから、何か仕掛けようかというのが始まりです。その時に色々賛同してくれた方がいらっしやっただ訳ですが、やっぱり継続が難しく辞めていく人もいます。

自分も加えてもらっていましたが、出れなくなって来て、今は息子が代わりに行っています。それも一つの横のつながりで、世代交代のおかげでまたつながりが広がっているようです。

田口知明委員

いつか誰かが何とかしてくれるんじゃないかみたいな、市長が頑張ればいいのか、市役所が頑張ればいいのか、そういうことではなくて、市民レベルでの意識改革が大切で、こうなってくると、やっぱり意識改革の話になってしまいます。

門脇市長

状況は充分に分かりますが、将来ビジョンの検討委員会として意識改革という結論に達しました、になってしまうのはいかがなものかと思います。

佐々木美智秋
委員

刺巻の人たちもそうですが、活動している人たちは自分たちで思いっきり楽しんでいる。和気あいあいとしています。

平野英子
副委員長

和気あいあいとしていないと、一番下手な人に賞状を贈ったりは出来ないですね。

門脇市長

それが喜びなんですよ。

平野英子委員

何らかの温かいつながりがあるから出来るんだと思います。

佐々木美智秋
委員

「なあに、あいつらなんか」と言っている人たちも心の中では羨ましいみたいです。強がっていても、一緒にやりたい人がいるみたいです。

田口知明委員

素直じゃないんですよ。

関口久美子
委員

話が変わってしまうかもしれませんが、先ほど市長から発言がありましたことで、研究所で進めている「なぜ、仙北市のお米を使っていないか」についての分析についてですが、お米に関してだけですか。

門脇市長

今のところはお米だけだと思います。野菜に関しては、学校給食に地場産の野菜がどれだけ使われているかの調査を行っています。

関口久美子 委員	<p>農業所得の向上について注目して考えると、地元で採れたものを提供出来ることが一番のおもてなしになって来る訳ですが、それが出来ない問題点があって、そこを掘り下げる必要があるのかなと思います。</p> <p>私のところの場合ですが、一番わがままが出来るということで、社長の自宅で作った米と社長の自宅で作った野菜を使っていますが、本当はもっと拡大していきたいんです。</p> <p>それが出来ない理由があって、例えば、私のところは洋食が多いので洋食で使うような野菜などを地元で採れるようにしたいのですが、それをお願いすると「全量買い取り出来るか」という話になったりします。</p> <p>また、予約の状況によっては、使う日の前日に電話でお願いして「明日、これだけの数量を持ってきて欲しい」となります。業者さんだと持って来てくれますが、農家さんだとそれは出来ないということになってしまいます。</p> <p>自分のところと契約農家との間だけでやりとりするのならば良いんですが、あっちのホテルとこっちの旅館となってくると、農家の方々がとても大変な状況になってしまいますので、それを調整する必要があるのかなと思います。そこさえ上手く行けば、ものすごく広がって行くように思うのですが、その部分については、一施設と一農家の関係では解決出来ない問題です。</p> <p>そこを仲介する立場の方とか機関などがあればものすごく広がって行くと思います。</p>
平野英子 副委員長	その機関を市で、と言うのは出来ないのですか。
門脇市長	非常に可能性が高い話です。調整役ということですよ。
平野英子 副委員長	そうですね。売り手と買い手の間の調整役みたいな感じだと思います。
関口久美子 委員	<p>そうです。例えばホテルだと朝食はバイキングが多くて、サラダのニーズがあるのでサラダを提供しています。最大公約数で使う物を集約する考え方もあると思います。</p> <p>レタスとか、そういった物は共通して使って行きましょうみたいな感じです。</p> <p>そういう交通整理みたいなことをするようなどころがあれば、例えば、レタスだったらこの施設でも仙北市産ですということが出来てくると思います。</p>
佐藤雄喜委員	私は秋田市のゴルフ場などと契約して、1ヶ月単位で、例えば三つくださいとか五つくださいとか、足りなくなったから一つ欲しいとか、そういったことは行っています。
関口久美子 委員	そうですね。個人同士の素材別の交渉になってくると非常にキツイところがあります。でも、それをやっていかなければならないのでやってはいますが。
田口知明委員	食品卸し的な仕事ですよ。某商店などではやっているんですけども、もう少し大きな規模が必要なかもしれません。
門脇市長	<p>仙台の例をお話すると、仙台郊外には結構な人数の若い農家の方々がいます。</p> <p>なんでそうなっているかと言うと、仙台市内には洋食屋がとても多くて、レストランなどで様々な野菜サラダの材料の需要がとても多くて、その需要を感じたある女性が、大学を卒業した後に自宅の畑を使って洋食屋さんに提供する野菜を作りました。</p> <p>距離にして20km位の近距離で作っているので届けることが容易だということで、その洋食屋さんに関係しているチェーン店だとか、先輩や後輩などが自分のところでも欲しいということになっていきました。そうすると、自宅の畑だけでは間に合わなくなって、近所の友だちに野菜作りをお願いするようになり近郊農業が拡大していきました。</p> <p>こういった連鎖が出来れば、つまり需要があればかなりのことが出来ます。</p> <p>仙北市の場合は、例えば、ORAEさん位の規模のところか他に何か所かあれば、というかある</p>

ような気がします。

佐藤慎委員

先ほどの米についての話で、仙北市産を使っているところが少ないということでしたが、地産地消の目的で条例などを作ることは出来ないのでしょうか。

例えばその条例で、「仙北市内の宿泊施設は米の産地を表示しなければならない」とかが出来たら、殆どの施設で仙北市産を使うのではないかと思います。

門脇市長

そのような拘束力を持つ条例を作れるかどうかは微妙な部分があります。

佐藤慎委員

そういった施設の従業員などは農家の方々も多いと思います。

島澤諭委員長

仙北市産を使っているところが目立つようにステッカーを貼るとかなら出来るかもしれません。

門脇市長

それについては首都圏などでも、地産地消の提灯を掲げたりしていますね。

佐藤慎委員

先日、千葉に行ったときも目にしました。

島澤諭委員長

そういったことであれば大丈夫だと思います。地場産を使っていない施設をどうこうというのは難しいですが、使っているところを目立たせることは可能だと思います。

佐藤慎委員

本当は、使っていないことをお客さんに知らせるのが一番効果があると思います。

関口久美子
委員

仙北市産を使っているのぼりなどを立てたりすると、それが立っていないところには「どこの物を使っているんですか」とお客さんは必ず聞きます。

このような環境を作ることで、使ったほうが良いんだと思わせることが出来るかもしれません。

佐々木美智秋

地元産を使わないと、お客さんが来ないとなると、使うと思います。

門脇市長

それは例えば、宿泊価格に原料代の上乗せをしなければいけないとなっても、それは行政云々の範疇ではないということでしょうか。

佐々木美智秋
委員

企業努力の部分ではないでしょうか。

門脇市長

この前も産業研究所の方々と、差額を埋める方法もとれるのではないかと聞いた話をしましたが、それは必要ないということでしょうか。

佐藤慎委員

その部分に仙北市のお金を投入することは、違うことのような気がします。

門脇市長

観光政策ではなく、農業振興政策として地産地消の流通確保のような考え方もあるのかなと思ったのですが、今お話しがあったように、違うと言われればそうかもしれません。

佐藤慎委員

これに関しては、市のお金を投入しなくても、他のやり方も模索出来ると思います。

田口知明委員

ターゲットにするお客さん次第では、仙北市産の米を使わないで料金を下げる施設も出てくると思います。

佐々木美智秋
委員

実際に、そのようなところはあります。

田口知明委員	そうだと思います。どういった方に利用してもらって、何を提供するかだと思います。
佐々木美智秋委員	上客と一般客では使う米が違う施設もあります。 一般のツアー客だったりすると、市外の米だったりするんですが、こういった大勢で来るお客さんにこそ市内のお米を使って欲しい気がします。
佐藤雄喜委員	「食べた米ですよ」というようにして、3kg入り程度の米を宿泊施設に並べればいいんです。
門脇市長	「地産地消」と言う言葉が一般的になってきて、言葉の新鮮味が無くなって来ています。例えばこの会として、地産地消についてもっとインパクトのある行動を起こすとか、そういった言葉を考えたりとか、テクニク的の部分もこの会で考えていただければありがたいです。 美郷町には「地産地消」では無い、違った表現があったように思います。「たぬ中」とか「美郷まんま」とかを総称した何かがあった気がします。 こういったことを市民運動にする為に、全国的に言われている「地産地消」とは違った切り口でのローカル運動的な部分をアピール出来る言葉などを作っていただければと思います。 今までの話は閉鎖的かもしれませんが、自分たちのところの物は自分たちで使って、外にお金を出さない。その一方で外貨を稼ぐということだと思うので、これはとても良い話だと思います。
佐藤雄喜委員	仙北市の第3セクターは、どこの米を使っていますか。
門脇市長	自分が社長の施設もあるので、可能な限り市内のお米を使うように言っています。
佐藤雄喜委員	実際はどれくらい使われていますか。
門脇市長	それについては研究所では調べていないと思います。 市内産を使っているという想定でしたが、早速、調査します。
佐藤雄喜委員	昨年12月に某第3セクターで忘年会を行いました。寿司が乾いていたりして大変な状況でした。
佐藤慎委員	そういったことは、直接、その施設にお話しになったほうが良いのではないですか。
佐藤雄喜委員	ちょっとした気遣いがあるとありがたいですね。
門脇市長	最近、料理が美味しくなったという声をよく聞くのですが、そうでもないのですか。
平野英子副委員長	おもてなしの心といったところかもしれません。
門脇市長	基本的な部分で質問があるのですが、「所得を向上したい」と思っているんですよね。
佐藤慎委員	「思っている」と思います。
門脇市長	それだったら、もっと一生懸命さがあってもいいのかなと思ったりするのですが。
田口知明	所得を向上したいと思っても、難儀はしたくないと思っているかもしれません。
佐藤慎委員	それはあるかもしれませんね。
門脇市長	例えば農家の場合だと、お米を作っていると個別所得保障などの色々なことがあったりで、昔

からやっているから続けられる状況です。80代とかの方々に言うには酷なことかもしれませんが、そうでなかったら花だったり野菜だったりの施設園芸などに転換していく方もいらっしゃると思います。

そういったことをしない方々の中に「農業政策はどうなっているんだ」と言っている人が多い状況を見ると、自分たちは汗をかきたくないけれども所得は高めたいという、勝手な話をしているに過ぎないのかなと思ったりすることがあります。

佐々木美智秋
委員

兼業の方が多からだと思います。

門脇市長

その部分はとても関係していると思います。

佐々木美智秋
委員

農業所得とそれ以外の給料の比率は、明らかに農業以外のほうが高い。

佐藤慎委員

それが建設業や誘致工場だったりする訳です。そうすると、全部がダメな状況になります。

佐々木美智秋
委員

収入比率が高い部分がダメになっているので、どんどん下がっていってしまう。

佐藤雄喜委員

私的なことですが、時間が制限されていて、そういった時間がとれないですね。

会社を経営している他に、田んぼについては頼まれた部分を含めると25町歩位やっけて田んぼ以外に時間が作れません。

なので、自分としての所得向上策として田んぼの面積を増やしています。おかげ様で今年も2町歩ほど増やすことが出来ました。今の自分にとってはこれしかないです。

門脇市長

佐藤委員は今のお話のように面積を増やすことによって所得を高めているということですね。

佐藤雄喜委員

所得を高めると言うか、米が安くなるのでその分を埋める必要があります。

門脇市長

状況を踏まえて努力されていることだと思います。そういう方々が沢山いると仙北市の所得は下位になるはずがなくて、そういう方々が少ないからこの状況に甘んじてしまっているのかなと思わざる得ない部分があります。

佐藤雄喜委員

仙北市の所得が低い理由として、赤字だろうが何だろうが農業にしがみついている人たちが多いということがあると思います。

門脇市長

話をしながら気づいたことですが、所得向上について論じる時に、何故所得が低いのかを徹底的に考える必要がありますね。

佐藤慎委員

先ほど関口さんが資料を求められたのは、そういった理由だと思います。

佐藤雄喜委員

農業以外で稼いでも農業で赤字になるので、所得が低くなってしまおう。

門脇市長

我が家も同様です。

佐藤雄喜委員

仙北市の農家は、6割以上がそういった状況ではないかと思っています。

田口知明委員

農業で赤字ということですか。

佐藤雄喜委員 そのとおりです。農機具を買い、その借金の為に農業以外で収入を得ているような状況だと思えます。

門脇市長 と言うことは、極端な話をすると百姓をやめればいいということでしょうか。

佐藤雄喜委員 やめるよりも委託したほうがいいです。

門脇市長 そうですね。自分では商いを行わずに出来る人にどんどん集約化していくということです。

佐藤雄喜委員 そのほうが、各家庭の所得は上がると思います。

田口知明委員 そのほうが、確実なプラスがあると思います。大規模な農業法人等を立ち上げるとか。

佐藤雄喜委員 大規模な農業法人は立ち上がっています。

門脇市長 ところが実態としては、なかなか流動化していません。
何故かという、そこにしがみついた百姓の魂を持った先輩方がいて、自分の父親にしても、どんなに赤字でも、また乾燥機を買うとか言い始めています。
そういうことなんですよ。

佐藤雄喜委員 そういう農家が多いので、結果として仙北市の収入が低くなっています。

門脇市長 経済学を学んだ方だと、何か有効策を持っていませんか。

島澤諭委員長 それに分かれれば至る所で儲けているとは思いますが、なかなか難しいことだと思います。
今のお話のような農業に関する赤字については、認識はされています。国レベルでも同様に認識していますがなかなか進んでいません。
集約化にしてもそうですし、農業の専門化にしても、定年後に農業を始めた専門の方々はいらっしゃいますが、若い人の専門農家は増えていかないというような状況が以前から続いていて、これについては国にも責任があるでしょうし、農協の問題でもあると思います。そこをどうするかが農業問題については避けては通れないところだと思います。
このことについて、ここでちゃんと議論することは問題解決する為に重要なことだと思います。
儲からないことから手を引く。経済学で言うところの効率化を図る。これをしないと農業の生産性は上がりません。これをやるためにはかなりの抵抗を廃してやっていくだけの心構えが必要です。

門脇市長 そうなった時、国家戦略はまず横に置いたとしても、市行政として政策を提案して「乗ってください」というものを提示する必要があります。それは何なんでしょうか。

島澤諭委員長 このまま続けていても儲からないことを正直に説明し、理解してもらえないと思います。

佐藤雄喜委員 例えば、農業委員会でも行っていますが、1反歩を貸すと幾らになるとか。
こういった事がもう少し分かり易ければ良いと思います。「小作料1反歩あたり〇〇円」などありますが、例えば「2町歩なら〇〇円の収入がありますよ」という風にしたらどうでしょうか。

田口知明委員 収支分析のようなことですね。「実はこれだけの赤字です」ということを知る必要があります。

佐藤雄喜委員 70歳以上の方々などは、そのことを分かっていないです。

平野英子 副委員長	そういった方々が分かるような、図で出来た説明資料などがあつたら良いですね。
門脇市長	自分の親を見ていると、農業収益で生活している認識はなくて、生き甲斐のような、使命感のようなものです。
佐藤雄喜委員	自分の土地は自分で守るという認識です。
関口久美子 委員	佐藤委員さんが田んぼを増やされたというのは、委託された面積が増えたということですか。
佐藤雄喜委員	そうです。委託と、他には競売で良いのがあればこれも利用します。
島澤諭委員長	農地の税金は勝手に決めることが出来なくて、つまりは、保有コストが無いに等しいので儲からなくても農家を維持できる人が多い訳です。 なので、学者的な話になりますが、保有コストを高める方法もあります。
門脇市長	例えば仙北市で、農地に対する税金を上げたりして、それが納められない場合はどこかに委託してください、みたいなことですよ。 これは厳しいですね。
田口知明委員	先祖代々で守って来た土地でしょうからね。
関口久美子 委員	代々受け継いで来た土地を耕すことに幸せを感じていることはあると思います。 幸せの尺度に関わってくるのですが、どうにもならなくなって手放す方と、まがりなりに出来ているのでその土地を耕すことに生まれた意義と幸せを感じていることがあって、その部分が農業県と言うか、代々土地を守って来ている地域にとっては非常につながりがあると思います。 手放すのではなく、預けて作ってもらうことへの気持ちの切り替えが難しいんだと思います。
佐藤雄喜委員	自分に頼んでくれる方々に関しては、70歳を超えた方などいますが、例えば、委託された田んぼの水管理とか草刈りとかをお願いして、幾ばくかの賃金を払ったりとか、そういうことでつながりを持ってやっています。
佐々木美智秋 委員	固定資産と見るか、流動資産と見るかにもよりますね。
佐藤慎委員	米を作ることにこだわりがあるのでしょうか。それとも野菜とかでもいいんでしょうか。
門脇市長	自分の親について話をすると、田植えをした満足感だとか、コンバインで稲刈りしたとか、そういうことのように。
佐藤慎委員	それが例えば、「今年は良いトマトが出来たな」とかにはならないんでしょうか。
門脇市長	我が家では花もやっています。私が花を導入したことも関係するかもしれませんが、花に対しての親の思い入れは強くないです。「咲いたね」程度です。例えば、今年は色の栄え具合が良いとか、そういう感じではないようです。
佐藤慎委員	仮に、それが米じゃなくて野菜でもいいなら、先ほど関口さんがお話しになったような契約とかが出来てきて、コーディネーターがいれば広がりを生むのではないのでしょうか。

- 門脇市長 それはとても重要な視点で、農家の方々がなぜ収益を得られないかと言うと、自分が出せることを自分の中で限定してしまい、自分の都合だけで作ってしまうということがあります。
作りただけ作って、売り先を探せと言われてもつらい部分があります。欲しいと言われた物を作るという考え方や情報がありません。
- 佐藤慎委員 自分は料理を作ることが好きで、外国の野菜などにも興味があります。
例えば西洋のポロネギなどは日本では作られていないだろうと思っていたので、日本の長ネギで代用していました。ところが、知人と築地に行ったら、新潟でちゃんと作られていました。
仙北市内でも、〇〇の野菜が〇月に需要があるとかが管理出来れば、何軒かの農家で手分けしながら出来るのではないのでしょうか。
- 門脇市長 それはすごく興味深いことで、例えば卸し先は市内に限らず、大仙とか秋田市とか岩手でもいいんです。レストランなどに、必要な時に必要な分量だけ届けることが可能だという前提を作って、何が欲しいのかを聞いてきて、今度はその情報を農家の方々に提供出来ればいいんです。
- 佐藤慎委員 その取りかかりの部分を市内で行い、それが出来るかどうか実験してみたいかがでしょうか。
- 佐藤雄喜委員 仙北市でそれをやるとした場合、15軒から20軒位の農家で、時間差で植えてもらって、時間差で収穫してもらおう。冬はハウス栽培で、通年にわたって基本的な数量を確保し、どうしても余った場合は廃棄してもらおう。そういう覚悟がある農家が集まれば可能かと思います。
- 佐藤慎委員 例えば、ホテルとか飲食店で団体などを作ってもらって、農家のほうでも団体を作ってもらえれば、需要側の団体と、供給側の団体と、間に入る人とで上手く話が進みそうです。
- 門脇市長 それは、先ほど委員長からお話しがあった横の連係が無いということが当てはまる話で、これについては、今まで必要性を強く感じていませんでした。
農村部は自分で米を作って食べていけるので、横と仲良くする必要性が無かった部分もあるのですが、今は連係の必要性が出てきています。
そして、このようなことは本来的に総合産業研究所がやることで立ち上げたものです。
- 関口久美子委員 市長からお話しがあったように、殆どの農家さんは自分が作れるのは「これだけ」という状況で、例えば夏にナスを植えています。ナスは毎朝収穫する必要があると、そうすると、ナスしか集まらない状況になってしまいます。そういったことの調整が重要になって来ると思います。
例えばトマトを例にすると、ピザとかパスタなどを提供しているところが市内にも沢山あって、トマトソースに使うのがホールトマトで、それを植えて欲しいというニーズが出てきます。
- 門脇市長 先ほど関口さんからお話しになったように、必要だと言われて作ったら豊作で採れすぎたりした場合は考えると、やはり農家は契約栽培に安心感を感じます。
- 関口久美子委員 そういった場合、例えば缶詰にして保管したりということが出来てきたり、去年のような猛暑だったりすると、葉物が長持ちしなくなったりするので、それを水耕栽培でとったりとか、供給のバランスを考えたりとか、そういうのが必要になってくると思います。
- 田口知明委員 その調整として、産直で売ったりとかの方法はいかがでしょうか。
- 関口久美子委員 時期的に全部がナスとかになってしまうと、今度は〇〇さんのナスが美味しいということになってきます。
- 佐藤雄喜委員 15軒位の農家が均等に出来ればいいんです。

関口久美子 委員	例えばナスなら、盛りのナスと中ナスと秋ナスとかで、秋ナスだけを専門に作る農家さんがあってもいいと思うし、そのバランスだと思います。
佐藤雄喜委員	白菜やキャベツなどは通年で必要だと思います。1軒の農家から短期間に提供されただけではどうにもならない訳で、そこで、複数の農家が順番に提供していけばよいでしょう。
佐々木美智秋 委員	給食センターにはそのようなシステムがあって、先週はA農家さんで、今週はB農家さんで、来週はC農家さんのようにやっています。 ナスはDさんからスタートして、キュウリはEさんからスタートしてみたいにやっています。
杉宮百合子 委員	秋だけの収入になってしまいませんか。
佐藤雄喜委員	そうならないように、複数の作物を複数の農家で循環させればいいです。
門脇市長	このメンバーで農業法人が出来そうですね。
関口久美子 委員	作物の先取りも必要で、特に和食などは「先取りの美」ですから、それを先駆けて植えていただくと。先にやる人は常に先に栽培して、中を担う人、後を担う人の分担に出来れば、野菜もご飯も美味しいものが提供出来ます。
門脇市長	レストランとか食堂とかの組合はありますか。
関口久美子 委員	飲食店組合のような団体はありません。
佐藤慎委員	調理師の団体はありますね。
関口久美子 委員	そこでまとまり過ぎている部分があります。職人さんなので色々難しい面もあるようです。 自分のコンセプトなどを職人に突きつけられる経営者がどれくらいいらっしゃるかということもありますが、話がこじれたりすると、職人を引き連れて「明日から来ません」と言われてしまいます。 そういうことが現実としてあることなので、強いことを言いにくい部分があって、和食の世界だったりすると、特にそういったことがあります。
門脇市長	例えば、仙北市内の飲食店の方々にアンケートを行い、「市内で作れるとしたらどんな食材が必要ですか」みたいな接続のやり方が必要になってきますね。
田口知明委員	そのアンケートに、経営者が記入するのか職人が記入するかで変わってきますよね。 社長はイエスと言っても、現場がノーだということが出てきますよね。
佐藤慎委員	経営者用と現場用の両方のアンケートを行ってみるのもいいのではないのでしょうか。
関口久美子 委員	先ほどの話にも関わってきますが、仙北市産のあきたこまちを使っているのぼりを立てるとか、お客様の声を反映させざるを得ない状況を作っていく環境整備も必要だと思います。
田口知明委員	例えば魚とかだと、見返りがあつたりだとかのディープな部分があると聞きます。 その部分の旨味を手放すようにさせることは相当な覚悟が必要かもしれません。
関口久美子	そこにメスを入れることが出来るかどうかは経営者の判断でしょうね。

委員	念のため言いますが、全部が全部では無いです。
杉宮百合子 委員	先ほど築地の話がありました。私は以前、築地で働いていたことがあります。 私の知人でネギを栽培している人がいて、販売先を探していたので、築地の友だちに連絡したら、その友だちが仲買さんに連絡してくれたりして。「来年からでも出荷出来ればいいね」なんて言ったら、すぐにでも欲しいと言われてたりしたこともありました。 こういったことが秋田市場などでも出来たらいいと思います。
門脇市長	情報です。「作ったから何処かで買ってくれないかな」ということもあるでしょうし、「作ってくれる人がいないのかな」ということもあると思います。 こういったことをきちんとコントロール出来る人がいるといいですね。
平野英子 副委員長	それが総合産業研究所ですよ。
門脇市長	そうです。そういうことで研究所は来年度、更にパワーアップする予定です。
平野英子 副委員長	そうすると、所得のことや、地産地消運動の展開も上手くいくでしょうし、トマトの話がありました が、食品加工産業群の育成についてもトントン拍子で結びついて行くのではないのでしょうか。
佐々木美智秋 委員	そうなんです。JAをとおしたりすると手数料が発生して、100円の物が80円になってしまいま す。
関口久美子 委員	ナスについてもソースに出来る可能性があったりする訳なので、作物を作るだけではなく、加 工についても両輪で考えて行く必要があります。
門脇市長	話の腰を折るようですが、こういう話は今まで何度も話し合われて来たと思います。 なんで突破出来ていないのかというところです。
平野英子 副委員長	こうやってみんなが集まってということは無かったと思います。 自分たちの業種だけでちょっとずつ集まってとかそういう感じだったと思います。
佐藤雄喜委員	今までは、レールを敷いてくれる人がいなかったのではないのでしょうか。
佐藤慎委員	地元に戻って11年位になりますが、観光に関しては講義とかがかなりあったと思います。
門脇市長	あとは実行するだけという状況だと思います。
佐藤慎委員	やってる人は、実際にやっていると思います。
平野英子 副委員長	一致団結出来るといいんでしょうね。
門脇市長	所得の確保という切り口は、今までそんなに無かったと思います。ビジョンとして政策にどれだ け反映出来るかという部分もあるんだと思いますが、手法については、今まで何度も話し合われ ていることだと思います。
佐々木美智秋	今日の会議の冒頭にありましたが、一歩前に出ると足を引っ張られる。

委員	でも、講義などを聞いて実際に活動している人はちゃんといます。それが目立たないんです。
門脇市長	想像ですが、やっている人は上手にやっていて儲けているんだと思います。先ほどもあったように、良いアイデアなどがあっても誰にも言わないんです。なぜ言わないのかというと、自分の取り分が減ると大変なので言わないんだと思います。
関口久美子 委員	そういった小さなコミュニティとか個人の方などがやってしまうと、色んな感情が入ってしまうので、そこは市の存在意義だと思います。誰が来てもいいし拒むこともない中性的な部分です。
門脇市長	公平性と中立性を保てるのは行政なんですけど、行政が事業主体にはなれないという部分もあります。例えば、とても良い補助制度を作って参加してくださいと言っても誰にも使ってもらえないという状況が今までに何度もありました。
平野英子 副委員長	現実にやっているところを見ていないから怖い部分もあるのではないのでしょうか。
田口知明委員	根本として、ビジョンが策定された後にどうするかだと思います。過去にも色々なマスタープランなどを作って来たと思いますが、それを作るのが目的化してしまっていて、作られた段階で終わってしまっています。行動が伴っていなかった。今回はそうならないようにしたいです。
門脇市長	そこが問題で、例えば、所得を高める為に〇〇の分野では何をどうする、という部分までこの会で話し合うことが出来ればとても良いことなんですけど、その時に、政策的にはこれで、関連団体にはこの動きをしてもらい、主体者が誰で、みたいなどころまで行ければいいんですが、そこまでは行けません。あくまでも、市としての方向性はこれだということで、その方向性に対して勇気を持ってやってみようという方々に対して、どれだけのことが出来るかということなのかと思います。
田口知明委員	そのとおりで、誰の為にこのビジョンが策定されたのかということだと思います。
平野英子 副委員長	そうなると市民の意識改革になってしまいますね。 そうだとすると、小学生の頃から育てていくしかありませんね。
佐藤慎委員	自分も同じように考えていて、将来ビジョンが10年20年先を見据えてということであれば教育は重要だだと思います。そこについても考えていく必要があると思います。
門脇市長	今日は商工会の公開ヒアリングを行いましたけど、その時にも、キャリア教育という観点から考えると、様々な商店や企業などに子どもたちからも参加してもらって、体験してもらうことが重要だという話がありました。小さい頃から、仕事ってこんなことなんだよということを分かってもらう必要があって、それがおもしろくなってくれる子どもたちは商業を始めたり、知るきっかけにはなるだろうという話がありました。 教育はとても大切で、大切なんだけれども年配の方々への教育というのは出来ないような難しい状況です。
佐藤慎委員	必要なのは、将来を担う人たちへの教育で、そこで、足を引っ張らないことを教えればよいです。
平野英子 副委員長	人の良い面を見なさいということかと思います。みんなで友だちの良い面を書きあって見せ合うとか。誰にでも良いので元気に「おはよう」ってあいさつするとか、ではないでしょうか。

門脇市長 中学生位までは、みんながそういう子どもたちだと思います。高校生になったり、大学生になったり、社会人になったりすると少しずつ変わっていくように感じています。

平野英子副委員長 「あその家はこれこれだから付き合うな」っておじいちゃんに言われた、などという声を、子どもたちから聞くことがあります。
「そんなこと無いと思うよ」と返事をしますが、固定観念を植えつけられてしまうこともあると思います。

佐藤雄喜委員 仙北市の悪い部分は、隣の家などと比較するんですよね。
あその家の子はこうだとか、こっちはこうだとか。お前は何でこうなんだとか。

門脇市長 先ほども話がありましたが、仙北市の好き嫌いみたいなものが必要かもしれませんね。
それが、意識のヒモを解く大きなキーワードかもしれないですね。

佐藤雄喜委員 本来は、あの人はあの人、自分は自分なんですけどね。

門脇市長 今日は何時まで可能なんだったでしょうか。

島澤諭委員長 20時10分の予定でしたが、現在20時43分です。

田口知明委員 時間も時間なので、一点だけ質問させていただきたいのですが、この会のタイムスケジュールはどうなっていますか。

事務局 会議は月1回のペースで開催したいと思っています。
会議は、このあと5回くらい開催したいと思っています、その中で素案などを検討していただいて、最後はみんなで確認しあうような形にしたいと思います。

島澤諭委員長 それでは「市民の所得向上について」を閉じます。「その他」について何かありますか。

5 その他

事務局 次回2月の開催日についてですが、期日まではここでは決めかねるかと思います。
都合が悪い日があったら教えてください。
また、次回の内容についてはどうでしょうか。

島澤諭委員長 所得向上について、今日は農業中心の話になりましたが、それ以外についても何かありますか
でしょうか

佐藤雄喜委員 次回までに提出される資料を基に話し合っても良いのではないのでしょうか。

事務局 それでは、委員長と相談の上、決定させていただきます。

佐藤慎委員 決定された内容に合わせて資料の準備をお願いしたいです。

事務局 テーマが決まり次第、準備出来る資料は会議前に送付しますのでよろしくお願いします。

門脇市長 今日の話の内容を実現化出来れば、20億30億という収入が生まれると思います。
今までは、話をしただけで終わっていたこともあったと思いますが、今回は所得を10%上げな

ければいけないので実行しなければいけません。

事務局

長時間議論いただきありがとうございました。これで第2回委員会を閉じます。